

福岡市における微小粒子状物質（PM2.5）各成分の経年変化及び発生源寄与の推定

環境科学課 佐野七穂・副田大介・松本弘子

第 22 回大気環境学会九州支部研究発表会

平成 23 年秋季より開始された PM2.5 成分分析の測定結果を用いて、各成分の経年変化について取りまとめるとともに PMF 法及び CMB 法による発生源寄与の推定を行った。質量濃度は市役所局、元岡局ともに全体的に緩やかに減少している。市役所局と元岡局の成分分析の結果を比較すると、質量濃度、無機元素成分、OC、EC については、都市地域にある市役所局が元岡局よりも濃度が高い傾向にあり、大陸からの越境汚染だけではなく地域汚染の影響も受けている可能性が示唆された。PMF 法及び CMB 法による解析結果はどちらも硫酸塩が減少傾向、硝酸塩が増加傾向であり、中国における発生源寄与に占める割合が変化していると考えられた。